



次期学習指導要領 観点別評価の見直し賛成が8割

河合塾

2025/08/18

次期学習指導要領に向け、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の見直しが検討されている。河合塾では高校教員アンケートを実施。多くの高校教員が観点別評価に課題を感じ、見直しを肯定的に見ていることが明らかになった。

■次期学習指導要領に向け観点別評価の見直し進む

中央教育審議会教育課程企画特別部会（以下、特別部会）では、次期学習指導要領に向けた検討が進められている。「豊かな学びに繋がる学習評価の在り方～過度な負担を生じさせない在り方との両立～」がテーマとされた第10回（7月4日）では、現行の「主体的に学習に取り組む態度」にあたる部分を評定には反映させない方向性が示された＜図1＞。

そこで学校法人河合塾では、高校・中等教育学校の先生方を対象にアンケートを実施。観点別評価が高校にも本格導入された2022年度以降、3年間の実践を振り返るとともに、特別部会で示された方針について意見を聞いた。

■観点別評価の見直し賛成が8割超

まず、自校での過去3年間の観点別評価を振り返っていたところ、「うまくいった」と「うまくいかなかった」がそれぞれ約5割と、ほぼ拮抗した。一方で、回答者の9割が観点別評価に「課題を感じる」と回答。これらの割合は、2023年に河合塾が行った調査の結果とほぼ同様である。観点別評価の見直しの方向性については、「賛成」が8割を超えた＜図2＞。

賛成理由としては、次のような課題を挙げるものが見立つ。

- ・ 評価方法の確立・評価基準の統一の難しさ
- ・ 公平・公正な評価の難しさ
- ・ 評定平均値の変動
- ・ 生徒の学力低下・学習意欲低下
- ・ 教員の業務負担

一方、次の理由などから反対する先生方も見られる。

- ・ 評価方法を具体的に考えるべき
- ・ 主体性の育成への悪影響
- ・ 評定が下がると思われる生徒の存在
- ・ 評価の変質への懸念

具体的なコメントは別紙をご覧ください。

■「学びに向かう力、人間性」育成の重要性は変わらず

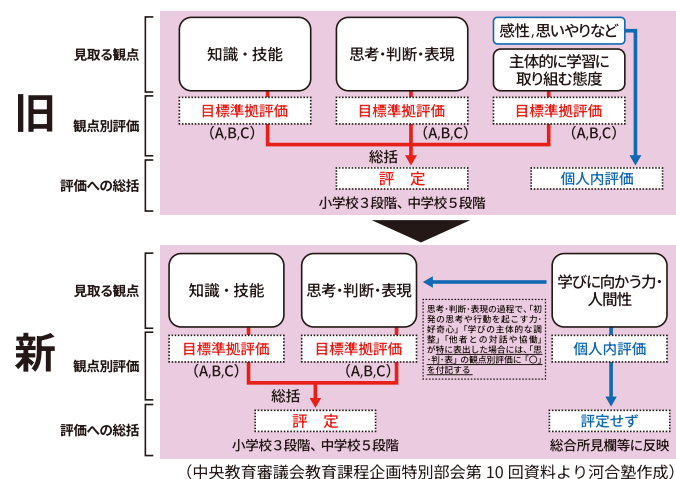
観点別評価については、かねてから多くの課題が指摘されていた。見直しへの「賛成」の声の多さからも、今回の変更案は、学校現場の実態を踏まえた対応と考えられる。

しかし、評定に反映させないこととなっても、「学びに向かう力・人間性」育成の重要性は変わらない。

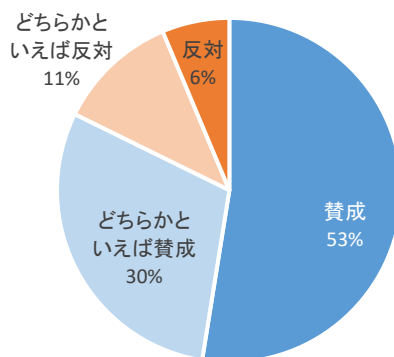
特別部会第6回（4月25日）では、「学びに向かう力、人間性等」自体も再整理する方向が示されている。

今後の検討の中で、「学びに向かう力、人間性」がわかりやすく再整理されるとともに、生徒の成長につなげられる個人内評価の在り方や、「知識・技能」「思考・判断・表現」と合わせた評価の方法について、教員の過度な負担を強いない形で、具体的に示されることを期待する。

＜図1＞新たな観点別評価のイメージ



＜図2＞主体的に学習に取り組む態度を
評定に直接反映させないことへの意見



（河合塾観点別学習状況の評価に関するアンケート2025より。
2025年7～8月に実施。回答数158件）

【ご案内】『Guideline2025年4・5月号』



変わる高校教育 観点別評価

- 観点別評価に関する高校教員の声を、2023年度実施アンケートから紹介
- 観点別評価の意義について、京都大学・西岡加名恵教授の解説記事を掲載
- 高校の観点別評価の実践事例を掲載

教育関係者のための情報サイト
Kei-Net Plusで全文公開



www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/backnumber/2025.html

河合塾観点別学習状況の評価に関するアンケート2025概要

河合塾

【実施概要】

調査対象 高校・中等教育学校の教員

実施期間 2025年7月25日～8月8日

実施方法 FormsによるWEBアンケート

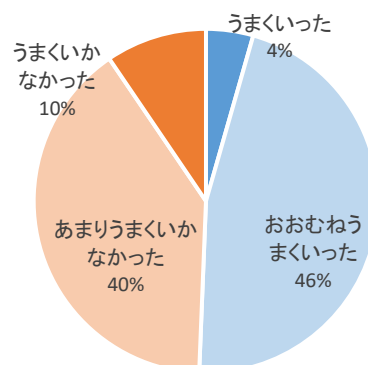
回答件数 158件（※8月8日時点）

【問1】

2022年度から、高等学校においても観点別評価が本格的に導入されました。

過去3年間の取り組みを、先生はどのようにお感じですか。当てはまるものを選択してください。

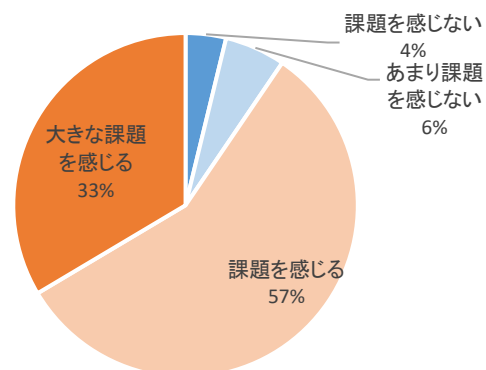
(n=158)



【問2】

観点別評価について課題を感じていますか。当てはまるものを選択してください。

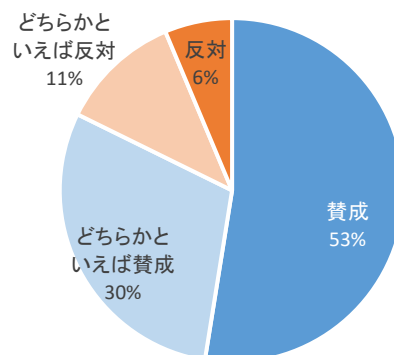
(n=158)



【問4】

中央教育審議会では、次期学習指導要領において主体的に学習に取り組む態度を評定に直接反映させないことが検討されています。この点について、どのようにお感じですか。当てはまるものを選択してください。

(n=158)



【問3】

問1・2（観点別評価の課題など）のように選択した理由を、ご自由にお書きください。【コメント抜粋】

観点別評価導入の意義

- ・ 観点別評価が導入されたおかげで、授業の質の向上につながったと感じる。
- ・ 評価の仕方が大切だということが教員間で共通理解を持つことができたため、生徒にとっても、普段の授業から頑張る習慣が身についたのではないかと思う。
- ・ 主体性評価があるからテストで赤点でも救われます。

評価方法の確立・評価規準の統一の難しさ

- ・ 評価の基準が非常に曖昧である。
- ・ 観点別評価に対する理解度に差があり、疑問を抱かざるをえない評価になっている教員もあり、その改善方法が見出せていないため。
- ・ 実際の評価においては「どの観点に該当するか」「どの程度の評価が適切か」の判断が難しく、まだ十分に慣れていないと感じています。特に、複数の観点が重なり合う場面や、生徒のパフォーマンスが中間的な場合に評価の基準が曖昧になりがちで、迷うことがあります。
- ・ 各観点での評価がぶつ切りになってしまい、横断的に評価したい場合に困難が生じる。
- ・ 観点別評価の理念と評価することには共感するが、評定に算出する際に課題を感じる。
- ・ 観点を切り分けて評価するのは難しい。
- ・ 「知識・技能」「思考・判断・表現」の区別が難しく、テスト作成をしても偏りが多くなる。
- ・ 数値化が難しい部分もあり、また観点別評価とペーパーテスト等による評価は合致しない部分も発生する。
- ・ 観点別評価のABCの基準が、学校での方針が固まらないと各教科科目でバラバラになってしまうこと。
- ・ 教員によっては価値を見出しておらず、「BCCで評定値5」など適当に評価していたこと。
- ・ テストの結果が良くなくても、評定3がつく。逆にテストが満点であっても、評定10がつかない。ルーブリックを作成しても担当によって評価のつけ方の差がでてしまう。
- ・ 観点別評価をすること自体は難しいが、現状ではどうしても後付けの評価になってしまっている。
- ・ 非常に煩雑で教員、生徒ともに負担が大きい。ミスも起こりやすい。本当に公正公平な評価が行えているか疑問に感じる場面がある。

公平・公正な評価の難しさ

- ・ 評価が公正かつ公平に行われているか疑問視される場面がある。
- ・ 教員の主観に大きく影響する。
- ・ 評価基準が曖昧で、学校間格差や担当教員による温度差が激しい。
- ・ 観点別評価になり多角的な視点で生徒と向き合えるが、学校間での評価においては差があると考えられる。
- ・ 観点別評価の導入により、評価が客観的であるかどうかの検証が必要である。
- ・ 評価が機械的になりすぎるのではないかという懸念がある。
- ・ 評価の基準が不明確で、教員間での解釈に差が生じることが多い。
- ・ 従前の総合的な評価と、観点別評価とでの逆転現象が起こり、不公平感が否めない。

主体的に学習に取り組む態度の評価の難しさ

- ・ 主体性を評価することは適切とは思えない。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の客観性担保が難しい。
- ・ 主体性の評価に必要な材料が不足している。
- ・ 主体性を評価する際の基準が不明確で、教員間での解釈に差がある。
- ・ 主体性についての評価方法は十分とは言えず、引き続き課題は残る。
- ・ 知識技能が身につく、徐々に思考判断表現ができるようになり、主体性を発揮できるようになる。学習途中の段階で、点数化することは、反対します。

評定平均値の変動

- ・ ほとんどの生徒が5または4をとり、学校推薦型選抜に弊害となる。
- ・ 評定平均値が大幅に上昇し、A段階を超える生徒の割合が4割を超えてしまった。生徒は冷静に捉えているが、学校推薦型選抜、とくに指定校推薦への保護者の歯止めがきかなくなる可能性がある。
- ・ 成績（評定平均）がかなり下がったように感じる。それにより、学校推薦型などへの出願が難しくなったケースがある。
- ・ 総評が相対的にかなり厳しくなってしまう、国公立の推薦や指定校推薦などで、評定が届かないケースが頻出した。

生徒の学力低下・学習意欲低下

- ・ ペーパーテストの比重が軽くなるにつれ、生徒の学力がさらに低下しつつあり、多少点数が低くても何とかすると授業や試験を甘く見る生徒が増えている感じを受ける。
- ・ 定期考査の勉強を頑張らなくても、他でカバーするような考え方が生徒の中にあり、学力を身につけさせる方向には機能していないと感じる。
- ・ ペーパーテストの比重が軽く、素点がかかなり低くても本校の規定では欠点にならないので、学習のモチベーションアップにつながっているか疑問。
- ・ 正直なところ、生徒の学力を伸ばせたという実感ももてず評価が甘くなったような印象しかなかった。
- ・ この3年間で機械的に評価をつけることができるようになったので、評価をつけることだけで言うとうまいきはじめているが、観点別評価をすることで生徒の能力や資質の向上に意味があるとは思えない。

教員の業務負担

- ・ 成績処理が煩雑になり、教員の働き方改革という観点ではかなり負担が大きかった。
- ・ 観点別評価を行うための評価対象の選定から評価へ至る作業量・拘束時間が、旧課程よりも増大した。
- ・ 授業内容と評価方法を変えたため、概ね問題なく評価することができた。
- ・ 業務負担のわりに、観点別評価がもたらす効果が希薄。
- ・ 観点別評価の導入により、事務作業や成績処理が煩雑になり、教員の業務負担が増大している。
- ・ 評価の手間が増え、働き方改革に逆行している。
- ・ 観点別評価にして手間が増えただけで生徒がそれにより何かの活動の材料にすることはないし、入試でも観点別の評価が高いからと言ってメリットがあるようには感じない。

【問5】

問4（観点別評価見直しへの賛否）のように選択した理由を、ご自由にお書きください。【コメント抜粋】

「反対」「どちらかといえば反対」の意見

評価方法を具体的に考えるべき

- ・ 観点別評価をこれからも継続するならば、主体性評価はなくすのではなく、評価方法を具体的に示していくべきだと考えています。
- ・ うまいかないからすぐやめるのでは現場が振り回されるだけ、評価できる指標作りを工夫すべき。
- ・ やっと3年かけて行った評価方法をころころ変えるのはおかしい。今までの評価に何が問題があったのかちゃんと説明しないとまずい。

主体性の育成への悪影響

- ・ 評価しないと「主体性」が必要ないと思われてしまうから。
- ・ 現在日本の教育で欠けているのは、主体性をどう育成するかにあると考えています。
- ・ 学習態度を含めての評価であるとする。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度を抜きにすることで、知識・技能は高くないものの頑張っている生徒の評価を加算できないことは、頑張らない生徒を作るきっかけにもなりうると思うから。
- ・ 観点別評価は能力や結果だけで評価するのを止めるために導入されたと考えていました。ぶれているように感じます。
- ・ 学力至上主義に陥る。そもそもなぜ観点別評価なのか。
- ・ 結局のところ、今まで平常点や観点3とされてきた部分がなくなることで、より知識偏重が加速する気がする。

評定が下がると思われる生徒の存在

- ・ 学習の定着度が低い生徒というのは一定数いるが、そういう生徒の中には、課題を一生懸命取り組むといった普段の取り組みで、成績を保っている生徒もいる。努力型の生徒に対する配慮は必要かと思う。
- ・ 成績の良くない生徒を引き上げることができなくなる
- ・ ①いわゆるテストの点数以外で成績が救われてきた生徒がいる。②テスト以外の活動がよい加減であると成績が伸び悩む。長期的にはテストの点数以外の活動が良いか悪いかはかなり重要であるとする。テスト以外の活動、特に頑張る点、コツコツできるという点を評価することは重要だと考えるから。
- ・ 知識・技能や思考力・判断力・表現力に比べて意欲は高い評価をつけやすいので、全体的に成績の下降につながる気がします。

評価の変質への懸念

- ・ 知識・技能や思考判断表現のBラインが非常に甘くなってしまっているのではないかと心配だからです。
- ・ 評定に反映させないのであれば、教科学習のみで評定がつく。主体的に取り組む様子がなくとも評定はこれまでより高くなることになりそう。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」を直接評定に入れない場合、段階別評価から記述的评价に変わる可能性があり、その方が問題が大きいか。

「賛成」「どちらかといえば賛成」の意見

「評価方法の確立・評価規準の統一の難しさ」、「公平・公正な評価の難しさ」、「教員の業務負担」など、問3の理由に挙げられた観点別評価の課題を挙げるものが大半。